

フロートテクノロジーで 世界へ躍進



理光産業株式会社

**傷ついても、油にも沈まない
画期的なフロート部品の誕生**

自動車、バイク、航空機、船舶、石油ストロブ、LPG…。これら燃料や液体残量の検知に欠かせないのが「フロート」と呼ばれる部品。理光産業は、世界的にも珍しい工業用フロートの専門メーカーで、年間4000万個もの生産量を誇る。

「1個20円前後が平均単価の地味な部品。専門化に踏み切れたのも大手でないから。典型的なニッチ産業といえるでしょうね」と語る梅津卓式社長。製品の一例を見せてもらうと、直径10cmほどの丸くて黒い物体。見た目は鉄の塊のようだが、驚くほど軽い。

「国内外にフロートメーカーは数社ありますが、特殊合成ゴムが主原料の専門メーカーなのはうちだけ。オンリーワン製品であることが最大の武器です」。



プレス自動制御盤

内部は独立気泡発泡体のハニカム構造。油にも強い浮力を持ち、気泡が蜂の巣のように独立しているため、万が一、傷がついても液体の浸食は最小限。もしも、フロートに穴を貫通させたとしても沈まないという。マイナス50℃～180℃の耐熱性も、ほかの金属やプラスチック製のフロートとは比べものにならない。

**業界初の量産化、海外進出……
フロート専門メーカーの誇り**

約500種におよぶ多彩なフロートと関連製品を、自社開発した製造機械で量産していることも特長の一つ。梅津社長によれば、「設立当初の昭和40年代は、完成まで2時間以上かかる工程を職工たちが手作業で行う、肉体労働の代名詞のような産業だった」という。つまり、機械化に成功したことが、生産向上と品質安定につながり、躍進の足がかりとなったのだ。設立2年後に量産体制が整った以降も製造機械に様々なテクノロジーを導入。燃料・オイル・種々の飲料水や薬品等の液面（残量）検知で、あらゆる温度・圧力の環境でも対応可能な製品群をとり揃え、フロートにメカトロニクス機能を加えた「フロートニクス」という新しいジャンルを確立した。

設立18年目には海外市場へ進出。「可能性のある部品メーカーを発掘してはダイレクトメールを送り続ける」という地道な営業活動からスタートし、年間100個未満の少ロット注文にも対応。現在、取引先は30か国を超え、世界トップ10に数えられる

る大企業も直接取引先として名を連ねる。

目に見える安全が強く求められる一方の現代、その指針を担うフロートが必要とされる市場は確実に拡大しつつある。「求められたらとえ1個でも供給するのが、うちの方針。採算性を重視する大手が参入できない中小規模の市場だから、まだまだニーズが転がっているんです」と梅津社長。その穏やかな表情に、誇りと自信のほどがうかがえた。

主な事業内容

独自技術による完全独立気泡構造の工業用フロートの開発・製造、フロート式レベルスイッチの開発・製造等



梅津卓式さん
代表取締役社長

理光産業株式会社

Company Profile

住所 / 〒584-0022
大阪府富田林市中野町東2-2-52
設立 / 昭和40年5月
資本金 / 6,000万円
従業員 / 130名（平成21年1月現在）
TEL / 0721-26-0511
FAX / 0721-25-8210

大阪20

ISO 9001

<http://www.riko.co.jp/>